

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (44)



伊野田が い〜のだ ～勇気の秘密はIND～

伊野田小学校 校長 真玉橋 真由美

木々に囲まれた芝生の校庭に、アカショウビンのさえずりが響きます。

小さな一年生が、自分より大きな熊手を使い、草を集めています。リヤカーに大量の草を乗せ、誇らしげに運ぶ子もいます。そんな下級生の動きを目で追いながら、せっせと仕事を進める上級生もいます。

伊野田小学校十三名の「いつもの朝」の始まりです。

子どもたちは、日々成長していますから、昨日と同じ朝はありません。正確に言えば、昨日より成長した「いつもの朝」です。

石垣市の勇気づけの教育では、勇気を「困難を克服する力・あと一步前へ進む力」ととらえています。

これらの力をつけるために、本校では、「成長」をキーワードに教育活動を進めています。

本校では、ほとんどの活動を全学年一緒に行います。その活動の中心になるのが、INDです。

INDとは、伊野田（INODA）縦割り異学年グループのことで、一年生から六年生がI・N・Dの三グループ（各グループ四～五人）に分かれ活動します。

朝のボランティア活動では、固定された清掃場所はありません。リーダーが、その日の天候や校内の状況をみて指示を出すのです。「Iグループは、昨日、先生達が草刈りをしてくれた運動場の草集めです」

「Nグループは、中庭の草集めと正門周辺の掃除です」「Dグループは水かけです」「掃除開始！」各自が必要な道具を持ち、清掃場所に向かいます。一年生も、入学式の翌日から活動します。限られた時間でどれくらい活動できるのかは、各グループの手腕にかかってきます。年度当初は、計画通りにいかないこともよくありますが、少しずつ役割分担や方法などが改善されていきます。「手が空いてる人、こっちも手伝って」「私は向こう側をやるね」「おねがい」「ありがとう」優しい声と笑顔が広がります。一人一人が自分で考え行動できるようになってきます。

広い校庭には、畑もあります。ハルサータイムは、子どもたちが大好きな栽培の時間です。ハルサータイムでは、栽培する野菜選びから収穫後の活用まで、子どもたちが考え実践します。

昨年の冬、「カレーパーティーをしよう」と野菜作りが始まりました。学校の近くの田んぼを借りてお米を育てていたので、畑に野菜を植えれば、カレーもサラダもできると意気揚々と取り組みました。カレーとサラダに必要な野菜を調べ、種や苗を準備。ジャガイモ、にんじん、タマネギ、キャベツ、大根、ブロッコリー、トマト、INDで分担して栽培スタートです。ところが、思うようにいかないのが栽培活動です。発芽を喜んだと思ったら一晩のうちに虫に食べられ、降り続く雨で雑草畑に大変身、一度に収穫できると思ったのに収穫時期がまちまちで、山盛りご飯を夢見ていたのに手のひらほどのご飯粒。

子どもたちが課題にぶつかる度に、先生たちは「困ったねー。どうしよう！」と問い返します。ここは成長のチャンス、差し伸べたい手をぐっと我慢して、あの手この手で子どもたちの気づきを支援します。

INDは、子どもが子どもの中で育ち合う活動です。先生たちが、最初から細かく指示すれば、ほと

んどの活動は効率良く進むでしょう。でも、自分で考え主体的に行動する子はなかなか育ちません。チャレンジして、失敗して、また考えて、もう一度チャレンジできる環境があれば、子どもたちは安心して成長していきます。そして、仲間と考え合い、励まし合い、教え合う経験の中で、尊敬や信頼の絆が深まり、一人では越えられない壁も越えていけるようになります。

I N Dの活動は、これからも続きます。I N Dで成長する子どもたちにご期待ください。

今日も、子どもたちと先生たちの高らかな笑い声が響いています。

「伊野田が い〜のだ♪」

